

北山だより

北山湿地(池金町)は、岡崎市自然環境保全条例に基づく自然環境保護区に指定されています。湿地およびその周辺でのすべての動植物の採取等の行為は禁止されています。これに違反した場合は、30万円以下の罰金が科せられる場合があります。貴重な自然環境の保護にご協力ください。

北山湿地を守る活動

【7月の作業内容〈16日(土)9時～正午〉参加23人】①A湿地休憩所のベンチ修繕準備②G湿地のナンカイイワカガミ周囲の手入れ③種子落としマット付近の木道修繕④ヒメカンアオイ移植場所付近の除伐ほか整備⑤撤去された柵杭に固定されたロープの取り外し(再利用のため)



G湿地奥での除伐作業

7月。湿地を取り巻く山林では枝葉が生い茂って陽を遮り、薄暗くなることから除伐作業が盛んです♣特にヒメカンアオイ移植場所では、今年度の調査でギフチョウの産卵が確認され成果が見られたことから、さらなる移植とヒメカンアオイ保全のための除伐・除草に力を注いでいます♣ミズゴケで覆われ日本庭園を思わせるG湿地でも、ミズゴケの拡大を狙って湿地奥の山林で除伐を開始。ただこの暑さの中、木を切り倒し、それをかたづけやすいように小さく刻む作業はなかなか大変。大きめの木1本で十分バテます♣休憩所のベンチはだいぶ傷みが目立っ



トノサマガエル?ダルマガエル? (北山 8月)

てきました。さっそく取り替えたいところです

が、ベンチにできるような立派な木を除伐し、運んでくるのが容易ではなく、思わぬ難題となっています♣7月に続き、8月の北山湿地も散策していて目に付く生きものや植物はまばら。しかしA湿地ではハッチョウトンボやキイトンボが観察できます♣ミカヅキグサとホザキノミミカキグサが密生しており、これらの合間に黄色いミミカキグサやムラサキミミカキグサも見ることができます。サワシロギクもまもなく咲き始めるでしょう。

森づくり講演会のご案内

岡崎市内で森林保全に関わっている各団体の代表者で構成された「岡崎きこり塾」は自然共生課と共催で「水源の森づくり講演会」を開催します。岡崎市には市民に水道水を供給する「水源の森」がありますが、整備が十分に行き届いていないのが現状。今回は自然エネルギーをテーマとして、森林を適正に管理することの重要性を学びます。

【日時】9月4日(日)13時30分開演【場所】ぬかた会館(額田支所に隣接 檜山町)【内容】笠原義人氏(宇都宮大学名誉教授・農学博士)「再生可能な自然エネルギーとしての森林資源の将来性」【定員】先着150人【申し込み】受付中。電話で森の総合駅まで(☎82-2511 月曜定休)



《北山湿地ヒナノシャクジョウ分布調査》7月から8月にかけて3回にわたり、湿地保護の会会員により実施されました。ヒナノシャクジョウは葉緑素を持たない腐生植物で薄暗い林床に生育します。愛知県内で北山湿地ほどまとまって生えている所はないと言われ、ここを特徴付ける植物です。愛知県では絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。昨年も実施されましたが、数人の会員により一部を調べただけでした。今年はより本格的となり、会員には広く参加を呼びかけ、調査範囲もA~Kまで北山の全湿地をくまなく調べました。わずか数センチの高さですで見つけにくいものの、多くの目で探すことにより、多数のヒナノシャクジョウを確認できました。(写真:おかざき湿地保護の会 岩田喜登さん撮影)



北山湿地(池金町)では毎月第3土曜に、おかざき湿地保護の会により保護保全活動が行われています。興味のある方は、自然共生課自然保護班までお問い合わせください。場所は「岡崎CC」入り口を過ぎた、集落の奥にあります。

《環境フレンドリーパーク》身近な話題を通して市民にエネルギーや省エネについて気づき考えてもらうためのイベント●8月27日(土)9時～16時(雨天中止)●東公園(欠町)●おもしろ実験、感電体験、発電体験、木工教室、エコマナーなどステージショーほか。※森の駅9月のプログラムは同ホームページまたは市政だより8月15日号をチェック。



8月7日(日)、森の総合駅(檜山町)や雨山ダム(雨山町)で開かれた「森の昆虫教室」。今回



も親子そろって原っぱで暑さに負けずに元気よくバツタなどの昆虫採集を楽しみ、専門の先生方から名前や特徴、昆虫の不思議な生態などを学びました。目を輝かせて虫たちとふれ合う子どもたちの生き生きとした姿が印象的です。

一方、森の総合駅で開催された「おかざき大昆虫展」。世界の昆虫、岡崎市の希少種、生きたヤゴや甲虫類のほか、今回は主にチョウとトンボにテーマが絞

られているように見受けられました。ずらりと展示された岡崎や三河産の数々の標本は、この地域にもまだ多様な生きものを育む自然が残されていることを教えてくれます。見飽きない楽しさと同時に、自然についていろいろ考えさせられる内容でした。(※昆虫に詳しい湿地保護の会会員からも標本や写真、採集したヤゴなど出品されました。)

愛知県は7月2日、面の木峠(設楽町)に生育する「タカネマツムシソウ」の除草作業を実施しました。この植物は本来、当地にはない種でしたが、何らかの理由で移入され繁殖。在来種であり絶滅の恐れのある「マツムシソウ」との交雑が懸念されたため、軽トラック1台分もの量が除草されました。一方、東京の皇居では8月上旬、お堀に「ツイトモ」という水草が原因不明の大繁殖。観光客から「見た目が悪い」との苦情が相次いだため、こちらも数日にわたり6〜7トンもの量が刈り取られました。ここに登場するタカネマツムシソウは希少種ではないものの日本固有種。そしてツイトモは環境省より絶滅危惧Ⅱ類に指定されており(愛知県でも同様)、水の浄化能力が高いとか。このため今回の刈り取りでは生育に影響を与えないよう根こそぎ撤去はしなかったとのこと。動物では、ツキノワグマが絶滅危惧種でありながら、人里に降りてきて殺されるという事態も相次ぎました。やむを得ないとはいえ外来種でもない動植物が駆除されるのは、何とも複雑な気持ちになります。こうした事態に至るには人為的な要因も大きいと思われ、共生できる方策が見つかることを願います。

愛知県は7月2日、面の木峠(設楽町)に生育する「タカネマツムシソウ」の除草作業を実施しました。この植物は本来、当地にはない種でしたが、何らかの理由で移入され繁殖。在来種であり絶滅の恐れのある「マツムシソウ」との交雑が懸念されたため、軽トラック1台分もの量が除草されました。一方、東京の皇居では8月上旬、お堀に「ツイトモ」という水草が原因不明の大繁殖。観光客から「見た目が悪い」との苦情が相次いだため、こちらも数日にわたり6〜7トンもの量が刈り取られました。ここに登場するタカネマツムシソウは希少種ではないものの日本固有種。そしてツイトモは環境省より絶滅危惧Ⅱ類に指定されており(愛知県でも同様)、水の浄化能力が高いとか。このため今回の刈り取りでは生育に影響を与えないよう根こそぎ撤去はしなかったとのこと。動物では、ツキノワグマが絶滅危惧種でありながら、人里に降りてきて殺されるという事態も相次ぎました。やむを得ないとはいえ外来種でもない動植物が駆除されるのは、何とも複雑な気持ちになります。こうした事態に至るには人為的な要因も大きいと思われ、共生できる方策が見つかることを願います。

愛知県は7月2日、面の木峠(設楽町)に生育する「タカネマツムシソウ」の除草作業を実施しました。この植物は本来、当地にはない種でしたが、何らかの理由で移入され繁殖。在来種であり絶滅の恐れのある「マツムシソウ」との交雑が懸念されたため、軽トラック1台分もの量が除草されました。一方、東京の皇居では8月上旬、お堀に「ツイトモ」という水草が原因不明の大繁殖。観光客から「見た目が悪い」との苦情が相次いだため、こちらも数日にわたり6〜7トンもの量が刈り取られました。ここに登場するタカネマツムシソウは希少種ではないものの日本固有種。そしてツイトモは環境省より絶滅危惧Ⅱ類に指定されており(愛知県でも同様)、水の浄化能力が高いとか。このため今回の刈り取りでは生育に影響を与えないよう根こそぎ撤去はしなかったとのこと。動物では、ツキノワグマが絶滅危惧種でありながら、人里に降りてきて殺されるという事態も相次ぎました。やむを得ないとはいえ外来種でもない動植物が駆除されるのは、何とも複雑な気持ちになります。こうした事態に至るには人為的な要因も大きいと思われ、共生できる方策が見つかることを願います。

きたやま歳時記⑬

不思議な植物の名前②

伝説により付けられた、恐ろしくも悲しい名前ミズオトギリソウ。水辺に生育するオトギリソウ(弟切草)の意味で高さ20～60cm。夏に2cmほどの黄色い花が咲き、葉の表面に褐色の油点が見られます。さて名前の由来ですが、その昔(平安時代?)傷の治療に使われていた秘密の薬草のことを、人のいい弟が他人に口外したため、兄が怒り弟を切り殺したのです。その血しぶきが庭で栽培していたその薬草の花や葉に黒い点々となって残ったと伝えられています。葉を透かしてみると見える黒い点々は血しぶきです…



オトギリソウ



ミスオトギリソウ(つぼみ)

次に、伝説により人の名前がついたテイカカズラ(定家葛)。藤原定家は「新古今和歌集」の撰者の一人であり「小倉百人一首」の撰者でもあります。式子内親王(平安時代の後白河天皇の第三皇女)を愛した定家が、死後も彼女を忘れられずに、ついにテイカカズラに生まれ変わって彼女の墓にからみついたという、優雅な時代の、歌人の恋物語から付けられた名前です(謡曲『定家』に基づく)。(文と写真/おかざき湿地保護の会 古本峯夫)



テイカカズラ

矢並湿地(矢並町)などのラムサール条約登録を目指している豊田市の活動については本紙でもたびたび紹介していますが、9月にも以下のようなプログラムが予定されています。【初秋の矢並湿地観察会】9月10日(土)9時30分～11時30分◆ミズトンボなど秋の湿地に咲く花を観察◆定員20人で参加料100円◆8月31日から参加受付【湿地保全講演会「環境省ラムサール条約潜在候補地“東海丘陵湧水湿地群”ラムサール条約登録をめざして」】9月24日(土)13時～16時◆講演1「ラムサール条約と湿地交流」講演2「矢並湿地の植生と周辺の里地・里山との関わり」◆定員50人で参加無料◆受付中。※いずれも参加希望者は電話で豊田市自然観察の森まで(☎0565-88-1310)。